



これまで全州市民との交流会は回を重ねてきました。今回は、大邱市民との交流会を初めて開催することを決め、何度も打合せを行い、この日を迎えることができました。会場には多くの方が来てくださいました。2017年2月の招へい事業で福島を訪れた方が、家族を連れて来てくださった方もいらっしゃいました。会場のあちこちで、抱き合い涙する場面もありました。



会場づくりも自分たちで行いました

福島の食でおもてなし。福島から持参した食材で日本食を準備♪  
会場づくりも自分たちでこころを込めて♪



福島のお米でいなり寿司



お好み焼の準備中。



大邱での交流会を前に事務局会議



ホテルのシェフも手伝ってくれました



大邱交流会の準備

打合せは真剣そのもの

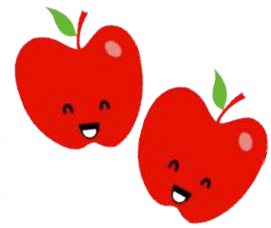


大邱のお客様、お迎え中。





大邱は、ソウル、釜山について、人口250万人の韓国第3の都市です。かつてはリンゴの産地で有名な都市として、おいしいリンゴをたくさん食べた美人が多いことから「リンゴと美人の街」とも呼ばれたそうです。市内を川が流れ、山々に囲まれた自然が美しい土地です。そんな気候風土が育てた人柄は温かく、親しみやすく、心と心がふれあう瞬間を何度も経験することができました。



福島の子供たちの思いを伝える。震災、復興、そして。。



大邱のご夫人方に福島の食べ物の話をする通訳のISさん。リンゴジャムに非常に関心を寄せていたとか。



大邱でも八木沼家の梨農家の話は感動を呼びました。



安斎忠作さんは、何かに夢中です。農家の当事者を代表して、福島の風評被害払拭のために挨拶していただきました。



踊り子に関心を示している大邱の市民。



演歌と踊り；毎夜、踊りの練習をしてから参加したという団員。